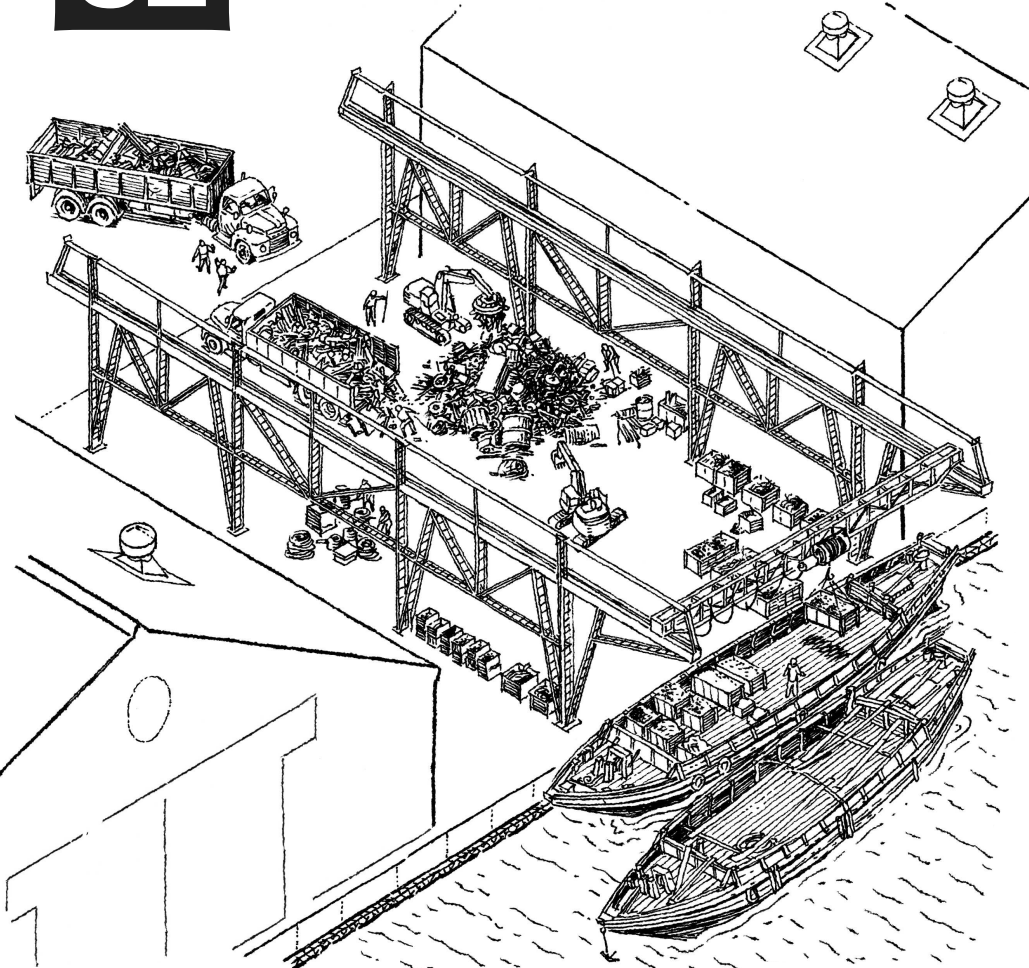


インタラクトする水土 鎚の削り合いが生む運河らしさ



中川運河は、全線で荷の積み降ろしが可能な「細長い港」としてデザインされました。名古屋港のふ頭沖に停泊した貨物船から荷を受け取った船は、中川運河に曳航されて、運河沿いの施設に荷揚げしました。反対に運河沿いで荷積みした船は、ふ頭の先まで曳かれ、貨物船への積替えを行ったのです。

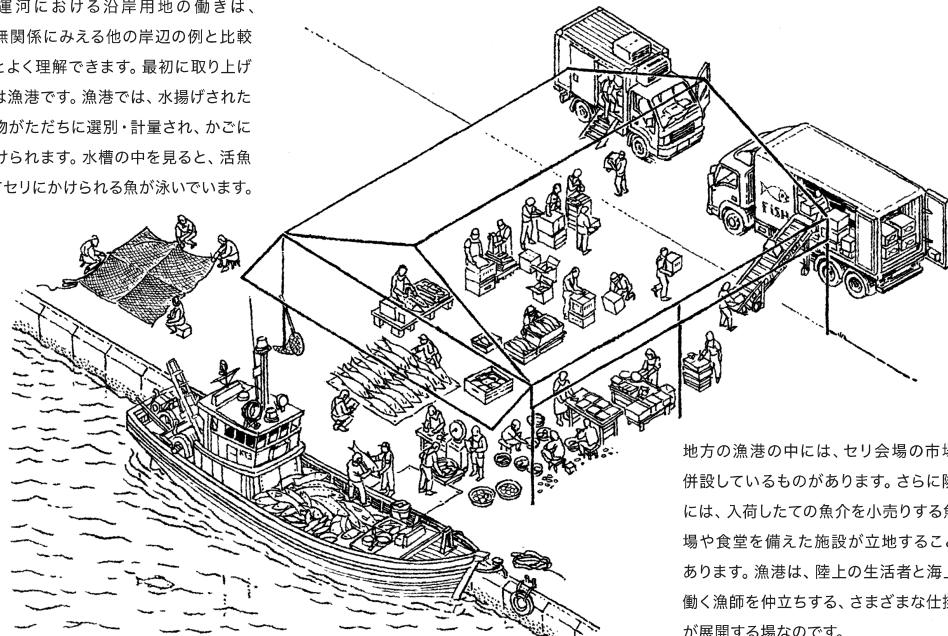
中川運河が開通した当時、コンテナ輸送はまだ発達していませんでした。そのため、貨物の多くは箱詰めや袋詰め、あるいは

製品単体で輸送され、水陸間の受け渡しのために、手間のかかる荷の組み換えが必要とされました。

つまり、客船の乗降と違って中川運河は、水路と陸路の間でモード転換を行う沿岸用地と一体化することで、港湾空間として機能したということです。沿岸の土地を借り受けた業者の中には、廃品からの鉄くずの抽出といった複雑な加工作業を行うものもあります。

漁港

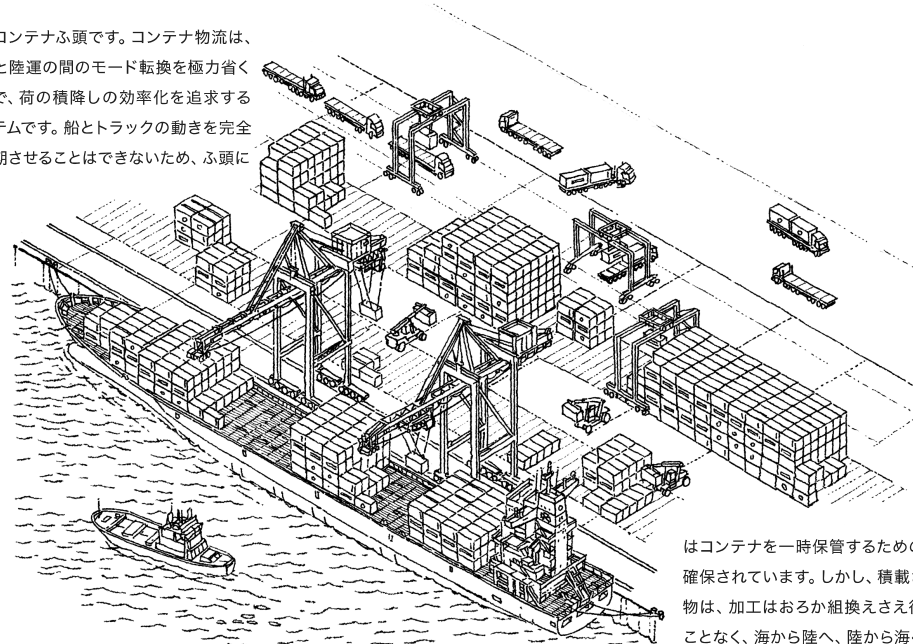
中川運河における沿岸用地の働きは、一見無関係に見える他の岸辺の例と比較するとよく理解できます。最初に取り上げるのは漁港です。漁港では、水揚げされた海産物がただちに選別・計量され、かごに仕分けられます。水槽の中を見ると、活魚としてセリにかけられる魚が泳いでいます。



地方の漁港の中には、セリ会場の市場を併設しているものがあります。さらに隣地には、入荷したての魚介を小売りする魚市場や食堂を備えた施設が立地することもあります。漁港は、陸上の生活者と海上で働く漁師を仲立ちする、さまざまな仕掛けが展開する場なのです。

コンテナふ頭

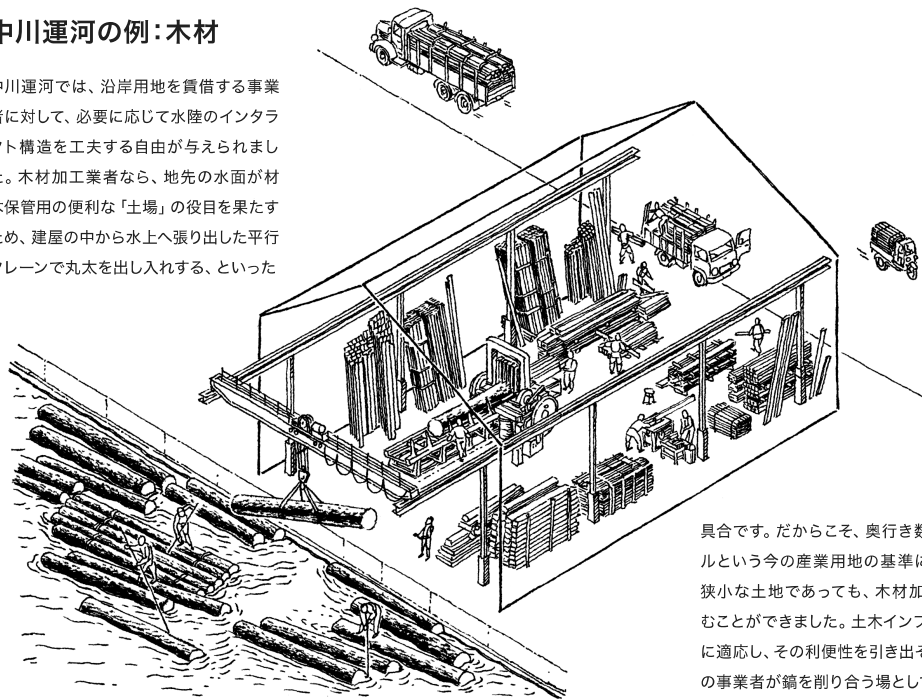
次にコンテナふ頭です。コンテナ物流は、水運と陸運の間のモード転換を極力省くことで、荷の積降しの効率化を追求するシステムです。船とトラックの動きを完全に同期させることはできないため、ふ頭に



はコンテナを一時保管するための土地が確保されています。しかし、積載された荷物は、加工はおろか組換えさえ行われることなく、海から陸へ、陸から海へと移されます。

中川運河の例：木材

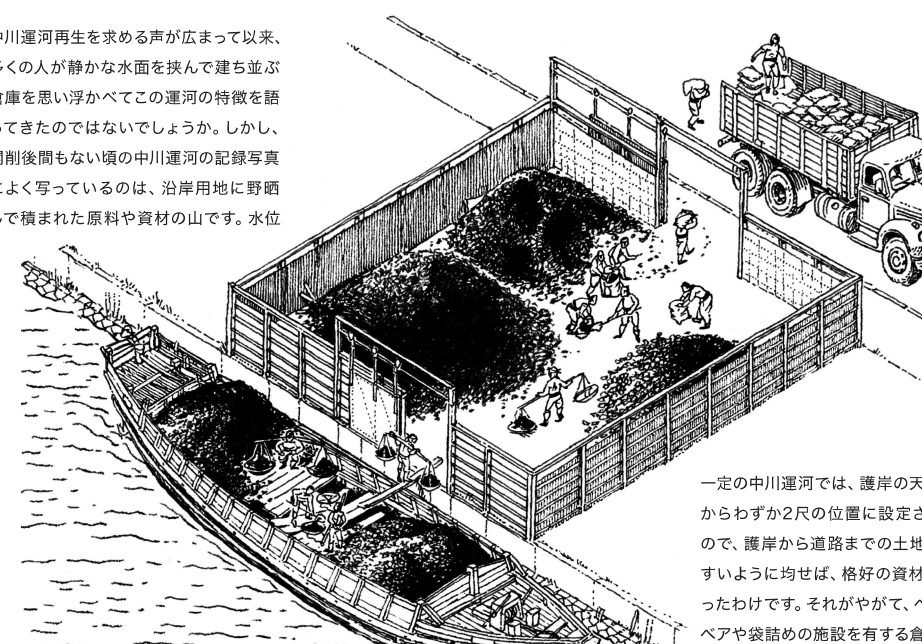
中川運河では、沿岸用地を賃借する事業者に対して、必要に応じて水陸のインタラクト構造を工夫する自由が与えられました。木材加工業者なら、地先の水面が材木保管用の便利な「土場」の役目を果たすため、建屋の中から水上へ張り出した平行クレーンで丸太を出し入れする、といった



具合です。だからこそ、奥行き数十メートルという今の産業用地の基準に照らして狭小な土地であっても、木材加工業を営むことができました。土木インフラの形態に適応し、その利便性を引き出そうと多数の事業者が鎚を削り合う場として、中川運河の風景が存在してきたのです。

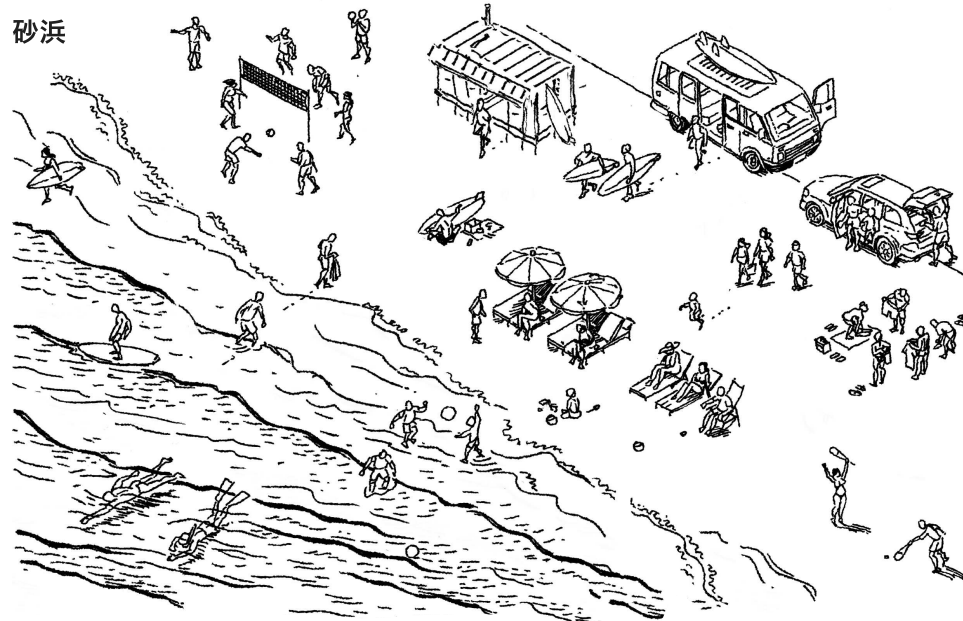
中川運河の例：石炭

中川運河再生を求める声が広まって以来、多くの人が静かな水面を挟んで建ち並ぶ倉庫を思い浮かべてこの運河の特徴を語ってきたのではないのでしょうか。しかし、開削後間もない頃の中川運河の記録写真によく写っているのは、沿岸用地に野晒して積まれた原料や資材の山です。水位



一定の中川運河では、護岸の天端が水面からわずか2尺の位置に設定されたので、護岸から道路までの土地を使いやすいように均せば、格好の資材置場になったわけです。それがやがて、ベルトコンベアや袋詰め施設を有する倉庫施設へと変化していきました。

砂浜



さまざまな例をみてきましたが、中川運河の「らしさ」を理解するためにうってつけの設定は、この運河を海水浴場の砂浜に見立てることです。

砂浜は一本の海岸線ではなく、着替えたり、泳いだ後、休憩するために横臥するなど、多様なイベントが発生する空間です。岩場の海岸でも釣りや飛び込みができる場所がありますが、砂浜なしに陸と海の行き来を楽しむことは容易ではありません。

水鳥ならぬ人間が水陸を快適に行き来するには、着替えたり濡れた体を乾かすといったモード転換が必要なためです。砂浜があるおかげで、人は海と接し、密にかかわることが可能になるのです。水陸の接続空間を享受し、共同利用のルールのもとで楽しみ方を工夫できるのが海水浴場の良さだとすれば、同じことが中川運河にも当てはまると考えてはどうでしょうか。

絵で見て考える中川運河の「らしさ」

都市の「らしさ」は、直感的にはわかっていても、言葉にしにくいものです。視界に収まらないスケールの大きな特徴、目前にいても気づきにくいリズム、意識化されていない付き合いの作法など。そうした言語化しにくい町の底流をつくる脈を可視化するために、『絵で見て考える中川運河の「らしさ』と題する本シリーズを制作しました。

絵からヒントを得ながら、未来の都市づくりのために想像力を働かせましょう。

『空間コードから共創する中川運河』 鹿島出版会(2016年) ISBN: 978-4306073203、2,500円+税



中川運河の空間コード

- A1 海に向かう都市の層 (2018/12既刊)
- A2 閘門式運河の水面 (2018/03既刊)
- A3 人工の自然堤防 (2021/12既刊)
- A4 緑のコリドー (2023/12既刊)
- B1 運河を挟んで向き合う (2019/08既刊)
- B2 インダストリアル空間 (2020/02既刊)
- B3 鳥と風が運ぶ都市の縁 (2020/09既刊)
- B4 連続体の美学 (2022/10既刊)
- C1 名古屋の大静脈
- C2 インタラクトする水土 (2025/06既刊)
- C3 「自然」とのつきあい
- C4 創造力の空間

